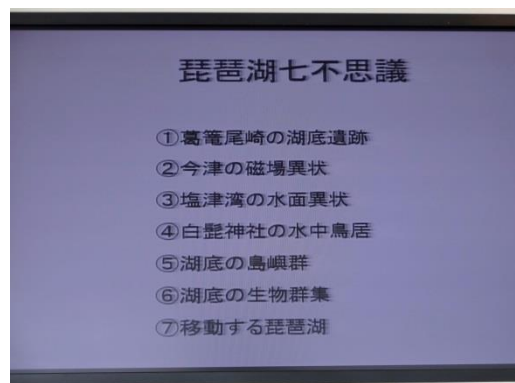


2014 megumi に乗ってびわ湖の中をのぞいてみよう!!

環境学習船 megumi による親子環境学習が、公益財団法人・平和堂財団の共催の下2014年7月29日(火)に開催されました。保護者25名、子供33名の24組が参加しました。その他にスタッフとしてびわ湖トラストから5名、実験観察を指導頂く立命館大学から6名、共催の平和堂財団から1名、琵琶湖汽船の4名が乗り組んで予定通り9時45分に晴天の大津港を出航しました。猛暑が続く毎日ですが、船内は空調が効いていて学習に取り組める環境が整えられていました。



オリエンテーションの後、立命館大学の熊谷先生(びわ湖トラスト理事)から琵琶湖についていろいろ教えていただきました。中でも琵琶湖七不思議として興味深いお話が聞けました。琵琶湖には解明されていない謎がまだまだあるようです。



お話を聞いているうちに透明度観察地点の北湖S局に停泊しました。船中では親子が協力して透明度を測定するための透明度板(セッキ板)を作成しました。組み立て図を見ながら、またスタッフに教えてもらいながら組み立てました。出来上がった組から海中に投入し湖水の透明度(直径30cmの白い円盤を水中に沈めて見えなくなるまでの水面からの距離)を測定しました。北湖のこの位置では7m前後の値が得られました。





透明度の測定が終わると今度はプランクトンの顕微鏡観察です。立命館大学の中島先生（びわ湖トラスト理事）のお話を聞いた後、先生と学生さんに湖中からプランクトンを採取してもらい顕微鏡で観察しました。プランクトンを見つけるのに苦労した子供さんもありましたが先生や学生さんに教えてもらいながら観察しました。



北湖S局を離れ昼食をとりながら次の目的地の沖島に向かいました。途中、沖の白石の近くで水質計を湖中に投入して水質のモニタリングを行いました。



沖島に到着するまでの間にビデオ学習（ミクロの生態系）をした後、入港待ちの間に船中で琵琶湖汽船の中村さんから沖島の説明を聞きました。



14時過ぎに沖島へ寄港、案内図を片手に1時間足らず島内を思い思いに散策しました。終了後のアンケートでも沖島が印象に残った様子が伺え、沖島を知る良い機会になったと思います。



沖島を出航した後、水質調査の説明を立命館大学の研究員の方にしてもらいました。残念ながら先ほどの沖の白石付近での実測値はデータの転送処理が間に合いませんでしたが、水面からの深さが変わると水温がどう変化するのか他の実例で教えてもらいました。続いて琵琶湖汽船の中村さんが温度差で湖水が循環するという「琵琶湖の呼吸」のモデル実験をしてくれました。



北湖から南湖へ戻って、柳が崎の棧橋に停泊しました。今度は南湖での透明度の測定とプランクトンの観察です。ここでは透明度は水面から3～4mで、北湖に比べ水が濁っていることが確かめられました。



好天の下、無事に親子環境学習のプログラムを終了して、予定通り大津港へ16時15分に帰港、いつものように全員集合し記念撮影をして解散しました。



最後になりましたが、共催者として賛助、助成頂いた公益財団法人・平和堂財団、ならびに協賛いただいた琵琶湖汽船株式会社に御礼申し上げます。

(藤田理事 記)